

ものをつくる喜び発信

小学生向けに出前講座

日建協

日建協では今後も、土曜学習応援団を通じた子どもたちへの出前講座を始め、「子どもたちに建設の仕事を伝える取り組み」により、産業の魅力向上に寄与していく。

日本建設産業職員労働組合協議会（日建協、田中宏幸議長）は21日、埼玉県久喜市の市立久喜東小学校で、小学生向けの出前講座を開いた。316年生の児童12人が参加し、班ごとに簡易な設計図を

作成した上で、ストローとクリップだけのストローハウスをつくり、「高さ」「美しさ」「強さ」を競い、仲間と一緒に1つのものをつくり上げる喜びや役割分担の大切さを学んだ。

司会を務めた中村浩一政策企画局長は「どんなに大き



な建物もたくさんの方が力を合わせて一生懸命つくっている。そうしてつくられた建物で、皆さんは生活したり、勉強したりしている。きょうストローハウスをみんなで作ってみて、建設の仕事のやりがいや大切さを感じてもらえたらうれしい」と呼び掛けた。

この出前講座は、「幼少期にもものづくりの魅力に触れることが重要」との考えの下、文部科学省の「土曜学習応援団」の取り組みに賛同する形で実施した。同小学校の放課後子ども教室である「さくらっ子ゆうゆうプラザ」の10周年記念特別講座「キッズニア in さくらっ子」には、日建協を含む6団体が土曜学習応援団から派遣された。

2015年11月25日（水）

建設通信新聞